

# 岡田君 初優勝！！

# おめでとう！！

県高校総体  
スキー

スキーの県高校総体兼第74回全国大会真選手会は16日、高山市のほおのき平スキー場で開幕し、男女の大回転

## 岡田(飛騨高山)初優勝

### 男子大回転

県高校スキー界にニューヒーローが誕生した。男子大回転を制した1年生の岡田康汰。「大回転で優勝できたのは初めてなので、本当にうれしい」と、あどけなさの残る笑顔で優勝の喜びを語った。

1回目から圧倒的な滑りを披露した。序盤からスピードに乗り、ターンでも体勢を崩さず終始安定。「真つすべ滑れて良かった」と話すラインで2回目も積極的に攻め、2位以下



下の3年生の選手に4秒以上の圧倒的な差をつけて勝利した。

就学前にスキーと出会い、父親の影響で早くからアルペン競技を始めた。中学時代には県大会の大回転で優勝、大回転でも準優勝し、全国大会も経験。「形がきれいでもなくても自分の滑りをして、とにかく速ければ良いところが自分に合っている」と、威勢よく語る期待の新星だ。

「はいはい、頑張りたい滑りでした」と17日に行われる回転との2冠を展望する。全国総体に向けても「岐阜

## 期待の1年生、圧倒的な滑り



男子大回転で、2回目とも安定した滑りを見せた岡田康汰。ほおのき平

の代表として恥じない滑りをした」と力を込めた。(穂田真穂)



岡田康汰

2連覇を達成した。大回転の男子は、岡田が他を寄せ付けぬ滑りを披露し、1、2回目ともに首位を守り、2位に4秒以上の差をつける合計2分11秒05で優勝した。女子は1回目で大森が頂点に立つと、2回目は1回目より0秒08速いタイムでゴール

# 大森さん 大会連覇！

## おめでとう！！

女子の大回転を制した大森那菜は「ほっとしました」と



大森那菜

### 女子 大森(飛騨高山)攻めて連覇



女子大回転で2連覇を果たした大森那菜

安堵(あんど)の表情で2連覇を喜んだ。重圧のかかる緊迫したレースだったが、強さと安定感を見せつけ「できる限りの滑りができた」と振り返った。  
スピードに乗りやすい旗門設定。大森はあえて「滑り落

し、合計2分17秒02で頂点に立った。  
男子は上位4人、女子は上位3人が全国総体(北海道・2月7～11日)に出場する。  
距離はアイリー郡上・牧歌の里クロスカントリーコースであり、男子10+クラシカルで朝田貴太(雙子)が35分56秒0で初優勝し、全国大会への切符を手にした。  
最終日は17日、ほおのき平で男女の大回転、アイリー郡上で男子の距離フリーが行われ

る。  
【男子】▽大回転 ①朝田貴太(飛騨高山) 2分11秒05(1分55秒08、1分55秒07) ②南裕太(益田清風) ③新谷健臣(飛騨高山) ④佐藤健太(同) ⑤野呂光輝(多治見西) ⑥近松恒祐(高山工)の植野冬将(同) ⑦堀内雪星(高山工)  
▽距離クラシカル(10+) ①朝田貴太(雙子) 35分56秒0 ②寺島光太郎(高山工)  
【女子】▽大回転 ①大森那菜(飛騨高山) 2分17秒02(1分58秒55、1分58秒47) ②川端咲千絵(同) ③佐藤優奈(郡上北) ④田中樂雅(飛騨高山) ⑤2回目途中棄権

ちるように」というラインを選び、「いかにブレーキをかけずに滑ってこられるか」を意識してレースに臨んだ。スピードが出るため一瞬のミスが大きなタイムロスとなるが、1回目より2回目は「もっと前に前に突っ込んだ」と高い技術と身体能力を發揮。1回目よりさらにタイムを削って滑り切った。

攻めの姿勢で2度目の頂点をつかんだ大森の長所は、技術だけでなく理想の滑りを追求する向上心だ。この日もレース後は「全部のターンが良いターンではなかった」と苦笑し、反省。約1カ月後に迎える全国総体に向けて「自分が持っている力を最大限出せるよう、納得の滑りができるように練習する」と気合を入れ直した。目標は全国総体での入賞。飛騨の冬となるよう、全力で前進する機えだ。

